

令和2年度公益財団法人国際エメックスセンター事業報告書

(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

1 閉鎖性海域環境保全推進事業

ア 第13回世界閉鎖性海域環境保全会議（エメックス13）の開催準備等

エメックス13については、当初は令和2年9月に開催予定であったが、新型コロナウイルス感染の拡大状況を鑑み、共催者のECSA（河口域・沿岸科学学会）と協議調整し、開催を令和3年9月に延期し、オンラインにより開催することとした。開催日程、開催方法の変更について、関係者に連絡するとともにホームページ、メールマガジン、ニュースレター等を通じて広報を行った。また、エメックス会議参加のインセンティブを高めるべくECSAと関係が深い世界最大規模の学術誌出版社であるエルゼビアとの関係構築を進めた。

【エメックス13の概要(予定)】

- 〔名称〕 第13回世界閉鎖性海域環境保全会議（EMECS 13）
＜EMECS13－ECSA58ジョイント会議＞
- 〔テーマ〕 人類の時代における河口と沿岸海域
～構造、機能、サービスそして管理
- 〔時期〕 令和3年（2021年）9月6日（月）～9月9日（木）
- 〔開催方法〕 オンライン開催
- 〔主催者〕 国際エメックスセンター
- 〔共催者〕 河口域・沿岸科学学会（ECSA:Estuarine & Coastal Sciences Association）事務局

イ 青少年環境教育交流(SSP)セッションへの学生の派遣

第6回エメックス会議（平成18年（2006年）バンコク）以来、継続実施されている「青少年環境教育交流(SSP)セッション」への参加者として、第13回エメックス会議に参加する学生の選考を実施した。

- 〔応募書類提出期限〕 令和3年（2021年）2月26日（金）
- 〔選考手続〕 審査員による書類選考を実施
- 〔参加予定人数〕 6名
- 〔参加期間〕 令和3年（2021年）9月6日（月）～9日（木）（予定）

ウ 科学・政策委員会の開催

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンラインを活用し、エメックス14のテーマ、トピックス及びエメックス15の開催候補地について協議を行った。令和3年度以降の科学・政策委員会においてもこれらの議題に関して継続して協議を行う予定。

【エメックス14】

- 〔開催場所〕 ムルマンスク（ロシア）
- 〔開催時期〕 令和5年（2023年）9月

- 〔テーマ案〕 ・ 不安定な世界における縁海及び閉鎖性海域の持続可能性と開発
- ・ 縁海及び閉鎖性海域の将来的な持続可能性と開発
 - ・ 縁海及び閉鎖性海域の持続可能性のための環境社会経済システム

【エメックス15】

〔開催候補地〕 ケアンズ（オーストラリア）

〔開催時期〕 令和7年（2025年）もしくは令和8年（2026年）

エ 国内外機関との連携

① PEMSEA（東アジア海域環境管理パートナーシップ）との連携

PEMSEA（Partnerships in Environmental Management for the Seas of East Asia）のオンラインによる第12回EASパートナーシップ会議に松田治エメックスセンター副理事長、事務局が参加し、国際エメックスセンターの組織概要、事業活動の紹介を行った。また、10月には東アジアの海の持続可能な開発と沿岸環境管理に関する情報交換・共有等の相互協力を促進するための覚書を更新し、今後一層の連携強化を確認した。

【第12回EASパートナーシップ会議】

〔開催時期〕 令和2年（2020年）7月22日（水）

〔出席者〕 PEMSEA評議員、政府パートナー、非政府パートナー

- 〔内 容〕
- ・ 2019年及び2020年の成果報告
 - ・ 新規非政府パートナーの紹介
 - ・ 東アジア海域の持続可能な開発戦略実施計画中間レビュー
 - ・ 国際エメックスセンターの活動紹介

【協力覚書】

- 〔内 容〕
- ・ 沿岸域や海洋環境の調査等に関する情報共有
 - ・ ウェブサイトのリンク化
 - ・ ワークショップ、セミナー等の共同開催

② 沿岸環境見本市への参加

環境省閉鎖性海域対策室からの要請を受け、フランス南部オクシタニーの沿岸部に位置するラ・グランド・モット(La Grande Motte)にて令和2年（2020年）9月29日（火）、30日（水）に開催された沿岸環境見本市「Le Salon du Littoral」での日本の沿岸環境における官民の取組事例を紹介するセッションにおいて松田治エメックスセンター副理事長がオンライン参加し、里海の概念や瀬戸内海の環境保全の取り組みなどについて講演を行った。

オ 調査研究事業

① 若手研究者活動支援制度の創設

閉鎖性海域の環境保全に資する研究に取り組む優れた若手研究者を育成支援するため、令和2年度から若手研究者活動支援制度を設置し、若手研究者間及びエメックス客員研究員との交流などのネットワーク構築を図った。

助成金を獲得した研究者は、その研究成果をもとにエメックスセンターを核として、国等の上位の研究助成金の獲得を目指すこととしている。

〔対象者〕 国内の研究機関等に所属し、申請する年の4月1日時点で満45歳以下の若手研究者

〔助成金〕 1件あたり300万円を限度とし、審査により助成額を決定

〔助成期間〕 令和2年4月1日～令和3年3月末日

〔選考方法〕 国際エメックスセンター客員研究員会議において審査を行った上で採否を決定

〔令和2年度応募・採択状況〕 応募11件、採択4件

〔研究実施計画ヒアリング〕 第1回：令和2年6月9日(火)、10日(水)

第2回：令和2年7月14日(火)

〔中間報告会〕 令和2年11月20日(金)

〔成果発表会〕 令和3年5月21日(金)



中間報告会

② 閉鎖性海域における最新の貧栄養化に関する海外論文の調査

兵庫県環境管理局からの要請を受け、「Oligotrophication（貧栄養化）」に関連する論文を抽出し、特に多かったバルト海周辺に関する論文10編について概要をまとめ、情報提供した。

〔調査期間〕 令和2年（2020年）8月～10月

③ ウニ捕食による磯焼けに係る研究事業

日本でのウニ捕食による磯焼けの現地調査及び可能な解決策の探求に関する研究を、香港に拠点を置くBRACE財団から資金供与を受けて実施した。

〔研究テーマ〕 日本でのウニ捕食による磯焼けの文献調査と現地調査及び可能な解決策の探求

〔プロジェクトリーダー〕 小松 輝久 エメックス客員研究員

〔実施期間〕 令和元年(2019年)8月1日(木)～令和3年(2021年)3月31日(水)

④ 尼崎港実証実験施設の活用

水質や底質、生物の生息環境の劣化等の進んだ湾奥部の環境の再生をめざして尼崎港に設置している人工干潟等の実証実験施設を共同研究の場として活用し、兵庫県環境研究センターによる人工干潟における溶存酸素濃度の終日変化の調査など、大学や研究機関と連携して閉鎖性海域の環境保全・創造方策に関する研究の推進を図った。

2 情報収集整備活用事業

ア インターネットによる情報発信等

ホームページをより見やすく快適に利用できるようにデザイン・構成とも一新し、閉鎖性海域・里海に関する情報の充実強化を進め、情報発信機能の強化を図るとともに、令和元年度に立ち上げたFacebook等によるタイムリーな情報発信を行った。

イ エメックスニュースレター等による情報発信

当センターの活動状況、世界の閉鎖性海域の環境保全活動等を掲載した「エメックスニュースレター」（日本語・英語）を発行し、情報発信を行った。

また、メール配信システム（メルマガ）を利用して、セミナーやイベント等の開催案内などを行った。

ウ パンフレットによる情報発信

令和元年度に内容を充実・更新した日本語版、英語版のパンフレットを活用した情報発信を行った。

エ 広報アドバイザー制度の創設

各種の広報媒体の特性を活用した広報活動を積極的に推進し、エメックスセンターの広報活動を活性化するため、広報アドバイザー制度を創設した。広報・普及活動を推進するために必要とされる幅広い視点、専門的知識等を有する3名の方々を外部アドバイザーとして委嘱し、ホームページやニュースレター、メールマガジンなどのレイアウトや構成などについてアドバイスをいただき改善に活用した。

3 人材育成・普及啓発事業

ア EMECS 海洋環境科学セミナー2020 “最先端の科学技術と海洋環境研究”の開催

海洋に関する研究について、高校生、大学生を中心とした若い世代に向けてわかりやすく紹介することにより、海洋研究に関心を持つ若年層を増やし、海洋環境保全に携わる人材のすそ野を広げ、海洋環境の保全活動の促進を図ることを目的として開催した。

【EMECS 海洋環境科学セミナー2020の概要】

〔開催時期〕 令和2年（2020年）12月12日（土）13:00～17:00

〔開催場所〕 神戸大学 百年記念館六甲ホール

〔対 象〕 将来、海洋環境に関係する分野を専攻することを検討している高校生、海洋環境関係分野の研究を行っている大学生等を中心とした若年層及び教職員

〔参加者〕 125名（会場54名、Web参加33名、見逃し配信38名）

〔内 容〕

- ・ 基調講演：神戸大学大学院工学研究科市民工学専攻 教授 内山 雄介
第1部 “海の仕事に就きたい人へ
～学部選択と卒業後のキャリアパス”
第2部 最先端の計算科学技術と海洋環境研究
- ・ 講演：大阪大学大学院工学研究科 地球総合工学専攻 助教 中谷 祐介
これからの瀬戸内海～新しい海との付き合い方～
- ・ 研究発表：愛媛大学 海洋学研究室 4回生 林 由真 氏
海の研究を続ける理由～SSPでの経験と大学での研究～
（同氏は第11回エメックス会議SSPセッションに派遣。
その後、愛媛大学へ進学し、現在有害なプランクトンによって引き起こされる赤潮について研究を行っている。）
- ・ 大学生による研究発表： 神戸大学大学院工学研究科 徳永 夏樹 氏
〃 松下 晃生 氏
- ・ パネルディスカッション

